

## 応募校・研究テーマ一覧

### 【山形県立東桜学館中学校】 未来創造プロジェクト

- 1学年 産業A 1班/山形の芋煮
- 1学年 産業A 2班/商品開発
- 1学年 産業A 3班/山形県のゆるキャラを詳しく調べ、オリジナルのゆるキャラを創り紹介しよう。
- 1学年 産業A 4班/お米について調べ、まとめよう。
- 1学年 産業B 1班/なぜ山形が紅花の産地として栄えたのかを歴史と照らし合わせて調べよう。
- 1学年 産業B 2班/人工モとyamagataをコラボし世界に発信しよう
- 1学年 産業B 3班/山形の四季
- 1学年 産業B 4班/山形の温泉とお土産について調べよう
- 1学年 自然A 1班/動物は森で食料を採取しているはずなのに、なぜ町に降りてくるのか?
- 1学年 自然A 2班/山形県の生態系について
- 1学年 自然A 3班/山形県の自然について～山形の自然を増やすためには～
- 1学年 自然A 4班/山
- 1学年 自然A 5班/山形の古代生物図鑑を作ろう。
- 1学年 自然B 1班/地方特産の歴史や特徴を調べる。
- 1学年 自然B 3班/飛鳥の自然を調べて、いいところを知ってもらおう!
- 1学年 歴史・文化A 1班/山形県内のお寺、仏教のことについて調べ、郷土愛を育む。
- 1学年 歴史・文化A 2班/私たちの地元の伝説を調べ、山形の魅力を伝えよう!!
- 1学年 歴史・文化A 3班/山形県の歴史・文化を海外の人々に伝えよう。
- 1学年 歴史・文化A 4班/地方ごとのゆかりの人物の関係について調べる。
- 1学年 歴史・文化A 5班/祭り～郷土愛を育て他国や他県からの観光客を増やそう!～
- 1学年 歴史・文化B 1班/どのようなボランティアが必要とされているのか、なぜ日本一なのかを調べ、ボランティアに興味を持ってもらう。
- 1学年 歴史・文化B 2班/山形の方言について調べ、後世に伝えよう!
- 1学年 歴史・文化B 3班/山形県の社寺仏閣について調べ、ガイドをつくろう!
- 1学年 歴史・文化B 4班/山形の伝統料理や和菓子の歴史を調べ広めよう!

### 【金山町立金山中学校】

生徒代表3年/創郷学習「金山学」

### 【米沢市立第二中学校】

1学年/総合的な学習の時間

### 【山形県立北村山高等学校】

家庭クラブそばガールズ/地域の特産品「そば」の新たな魅力を高校生の視点で掘り下げよう。

### 【山形県立村山産業高等学校】

農業部バイテク班/オキナグサの保護・増殖活動

### 【山形市立商業高等学校】

学校家庭クラブ/紅花菜の魅力

### 【山形県立新庄神室産業高等学校】

ラズベリープロジェクトチーム/最上ラズベリー会との連携プロジェクト 最上の魅力 再発見

### 【山形県立置賜農業高等学校】

置賜農業高校チームAgriction「豆ガールズ」/紅大豆の里を守れ売り込め!豆ガールズプロジェクト

### 【山形県立小国高等学校】

1学年「地域文化学」5班/越後米沢街道十三峠

### 【山形県立高島高等学校】

「観光振興」選択者/ふるさとのCMたかはた編～私の好きな風景～

### 【山形県立鶴岡工業高等学校】

3年 環境システム科/うつくしい山形 うつくしい庄内 うつくしい鶴岡  
…ふるさと再発見・環境保全・環境保護活動

### 【山形県立鶴岡中央高等学校】

3年次 美術・デザイン系列/鶴岡市山王通り商店街の各商店を象徴するのぼりのデザイン・制作

応募校の研究内容やコンテストに参加したプレゼンテーションの資料を山形県教育庁ホームページで閲覧できます。

発行者/山形県教育庁総務課(山形市松波2-8-1 TEL.023-630-2692)

平成28年度 山形県「郷土愛を育む活動推進事業」

# 郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト実践記録集

山形県教育委員会



山形県教育委員会では、平成27年5月に、「人間力に満ちあふれ 山形の未来をひらく人づくり」を基本目標に掲げた「第6次山形県教育振興計画」を策定し、その基本方針の一つに「郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する」ことを掲げています。

私たちは、皆さんが、郷土である山形県について主体的に調べ、地域の方々とふれ合いながら学ぶ活動を通して、ふるさとのよさに気づき、ふるさとを大切に、そして誇りに思う気持ちを高めてほしいと願いながら取組みを進めています。その取組みの一つが、今年度初めて実施した「郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト」です。

皆さんが「探究」されたテーマを見ますと、山形の豊かな自然、歴史、文化、産業、地域の発展に貢献した人物などに関わる、実に多彩で深みのあるものばかりです。そして、皆さんが「探究」を進めた道筋には、仲間や地域の方々と協力し、新たな価値を創造していこうとする意志と明確な視点があり、このような学びを通して、「人間力に満ちあふれ 山形の未来をひらく人」が育っていくのだと感じます。

県内の中学校・高等学校の生徒の皆さん、そして先生方にはこの実践記録集をぜひお読みいただき、これからの学習の構想・発展に役立てていただければ幸いです。

最後になりますが、本コンテストの審査員となっただき、的確な評価と温かい励ましの言葉をいただいた沼野慈先生、堀川敬子先生、渡部泰山先生に、あらためて深く感謝申し上げます。

平成29年2月

山形県教育委員会教育長 廣瀬 渉

## 【審査員】



### 沼野慈

現在は特定非営利活動法人NPOもがみ 理事長、地域社会デザイン研究所 所長、山形創造NPO支援ネットワーク 理事を務める。

企業で食品添加物や食材の研究・特許開発に従事した経験から、食の安全と消費者、働く女性の就労環境や子育て問題などに強く関心を持つようになる。地域活動の活発化のため、団体設立支援や公益よろず相談会を主宰する等の中間支援活動を行う。自治体や市民協働に関する講師依頼や相談が増え、協働のコーディネーター・ファシリテーターの役割を自認。

山形経済同友会・地域づくりの景観賞審査員のほか、新庄市振興計画審議会、山形県農村環境保全推進委員会等、多数の委員を務める。

### 堀川敬子



天童市出身。東京からのUターン後、家業（青果物卸業）に従事する傍ら、天童青年会議所の地域づくり事業や天童商工会議所青年部の「平成鍋合戦」の実施に参画。2001年、特定非営利活動法人天童NPO支援サロンを設立し、理事および事務局としてコミュニティ・ビジネスの創出及び啓発事業、「国際ジャズフェスティバル in 天童」、「ふるさと山形塾」など各種事業に取り組む。山形県まちづくりサポーター、山形県立博物館協議会委員、山形県地球温暖化防止活動推進委員、山形県公共事業評価監視委員会委員等、様々な役職を務める。

### 渡部泰山



東北芸術工科大学教授。専門分野は学校経営学、教育と芸術学。山形県内各高校で教諭、教頭、校長を務める。山形県教育庁世界遺産推進監、教育次長、山形東高等学校校長を歴任。山形大学大学院教授を経て現在に至る。

新庄市都市計画審議会、山形県教員育成連絡会議、山形医療技術専門学校学校評価委員会・教育課程編成委員会等、各種の委員を務める。県内外の雑誌、新聞に教育、美術、文学、演劇に関する多くの論文を発表。『東北芸術文化の水脈』で真壁仁野の文化賞、文部科学大臣教育者表彰受賞。『教育の森通信』『迷宮の泉』『枯木野の色』『山形現代美術館』他著書多数。新庄市に山形現代美術館開設。東北芸術文化学会所属。

## 【ゲスト審査員】



### 朝倉さや

山形県出身。

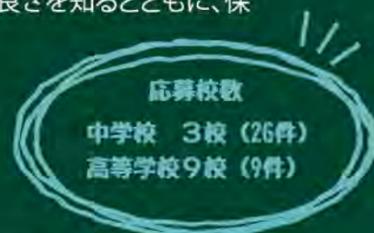
民謡民舞全国大会で2度日本一に輝き、動画サイトでは民謡を取り入れたカバー楽曲が話題に。史上初山形弁の歌姫として、デビュー前から多数のメディア出演、テレビ、ラジオ、また新聞にも掲載されその歌唱力・明るいキャラクターで聴くだけで元気が出る!と話題を呼んでいる。

2015年、レコード大賞企画賞を受賞。

## 「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」の趣旨

中学生・高校生による郷土愛を育む副読本「郷土 Yamagata—語って創るやまがたの未来—」等の活用や地域体験活動の成果を募集し、優れた取組みを表彰することで、自分の住む地域の自然や文化、歴史、偉人などのふるさとのよさを発見・再確認し、郷土に対する愛着や誇りを育みます。これらの作品を広く発表することで、中学生・高校生が互いの地域の良さを知るとともに、保護者や地域住民にとっても、地域の魅力を再認識する機会にします。

### 審査方法



研究内容をまとめ応募

#### 一次審査

審査員3名による書面審査で最終審査参加校を選出 審査項目は下記5つ  
○地域との交流 ○地域の理解度 ○独創性(新しい魅力等) ○完成度 ○今後の展開の可能性

8校が最終審査へ

15分間のプレゼンテーションによる研究発表

#### 最終審査

一次審査の審査項目(上記5点)に「プレゼンテーションにおける聞き手の理解を促す表現の工夫」を加え審査員3名がそれぞれ5段階評価

最も評価点が高い学校に最優秀賞を贈呈

### 最終審査会

●開催日/平成28年11月19日(土)13:00~ ●会場/山形県生涯学習センター「遊学館」



## 山形県立置賜農業高等学校

### 置賜農業高校チームAgriction「豆ガールズ」

八巻 香澄 遠藤 有華 相澤 佑好 安彦 光  
小川 さおり 高橋 しおり 千田 絵理香 吉田 留那



## 山形県立東桜学館中学校

### 1学年産業B 2班

横山 潮音 波江 悠暉 黒沼 綾乃 庄司 佑



## 紅大豆の里を守れ売り込め!豆ガールズプロジェクト

### 1) テーマについて

私達は川西町の伝統野菜「紅大豆」の特産品の開発や販路拡大に取り組むため、昨年より「豆ガールズプロジェクト」を立ち上げました。新しい紅大豆を用いた特産品の開発、県内外でのインショップ立ち上げ、紅大豆料理の普及を活動目標とし、食育活動や豆料理講習会の開催、6次産業の振興に向けた加工や販売など幅広い活動を行っています。



### 2) テーマに基づく活動について

紅大豆は生豆での販売の他、地元の農家の方々が開発したお菓子が販売されておりますが、私達はこれに加えて紅大豆のジャムとあんを使用した大福「百恋(ひゃつこい)」の商品化を実現しました。更に地元の菓子店に製造を依頼し、年間1万個の販売を目指しています。

紅大豆の販路拡大は豆農家の収入増のほか地域産業の活性化にもなると考え、県内外でインショップ「豆の駅」の立ち上げ活動を行いました。

県内2店舗、都内3店舗の計5店舗を開店し、紅大豆の紹介や委託販売の結果、売上が5倍に増えました。

紅大豆料理普及のため私達が講師となって開催している豆料理教室は、参加者が260名を超え、都内での開催も行いました。その他にも、小学生を対象に紙芝居やカルタを使用した食育活動、紅大豆やくらかけ豆などの伝統野菜の豆を栽培している豆農園を「豆ミュージアム」として一般開放を行うなど、多世代に紅

大豆の普及活動を行っています。

### 3) これからの活動に向けて

以前は地域再生や活性化に消極的だった大人の方々も、私達の活動に積極的なサポートをしてくださるようになりました。最近では地元マスコミに活動を取り上げて頂くなど、「紅大豆」をキーワードとした地域活性化を実感できるようになりました。これからも紅大豆の里の復活のため、活動に励んでいきます。

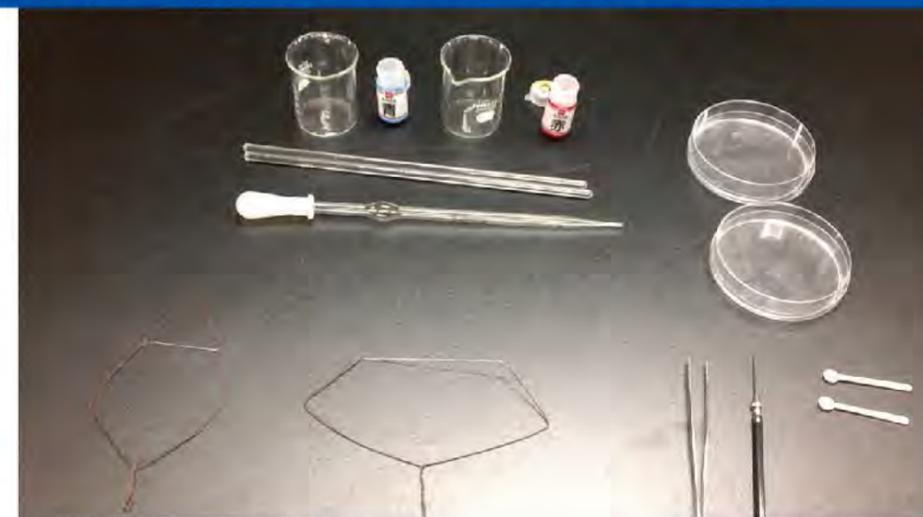
## 人工クモ糸とyamagataをコラボし世界に発信しよう

### 1) テーマについて

数年前にテレビのニュースで人工クモ糸の製品化を目指している企業「Spiber」が、山形にあるという情報を知り、世界に誇れる山形の産業があることに感動し、深く調べたいと考え、研究テーマとすることにしました。

### 2) テーマに基づく活動について

まず、人工クモ糸の性質について調べました。人工クモ糸は非常に強い糸であり、石油を使っていないので自然に害を及ぼさないということが分かりました。その後、自然のクモ糸について、湯煎・耐熱・通電の実験を行いました。その結果、湯煎後に強度は変化しませんでした。ガスバーナーを用いた耐熱実験では30秒ほどで溶けて無くなりました。通電実験でも予想通り電気を通さないと分かりました。実験の結果から、人工クモ糸の方が自然のクモ糸より、何倍も優れていることが分かりました。実験後、研究のきっかけとなった



「Spiber」を訪問し、研究についてのアドバイスを受けたところ、テーマに掲げていた「クモ糸を製品化させる」ことを実現させるためには約100万匹のクモが必要となる難しさがあるため、山形の特産品とクモの糸を結びつけるという方向に研究テーマを変更することにしました。これからは、紅花、有機ELやオリエンタルカーペットなど、山形を代表する物とクモ糸をコラボさせて、広く発信していきたいと考えています。

### 3) これからの活動に向けて

今回の実験や探究活動を通して、何度も試行錯誤を重ね新しいものを生み出そうと努力することで、人工クモ糸のようなものができるのだと実感することができました。今後、この活動を通して学んだ山形のすばらしさや、郷土愛を大切にして、将来山形よさを全国に、そして世界に広げていきたいと思っています。



### 審査員/渡部泰山氏

学校の教育方針と生徒たちの思い、学び、活動が豊かに接続し、地域の課題を理解しつつ主体的に学ぶ生徒たちの取り組みが具体的に鮮やかでした。郷土愛にあふれた活動記録、他者に伝えようとする姿勢も真摯で、ユーモアとデザイン性にも富んだ表現方法も卓越していました。



### 審査員/堀川敬子氏

いま話題の「人工クモ糸」に着目し実験を試み、会社まで訪問して話を聴く等、その積極的な姿勢と探究心に感心しました。そして他の県産品とのコラボを思い付く柔軟さは素晴らしいと思います。





## 金山町立金山中学校

生徒代表 3年

阿部 美央里 須藤 豪大 早坂 美優



## 米沢市立第二中学校

1学年

佐藤 匠馬 荒木 星風 川上 千輝 加藤 遥  
梅津 沙風 松本 季子 水野 綾華



### 創郷学習「金山学」

#### 1) テーマについて

私達は、創郷学習「金山学」の中で、「未来に向かう地域の発展、愛町心あふれる金山人づくり、町民一人ひとりが輝く地域力」という町の総合発展計画の趣旨に添い、金山中生が一町民として町民の方々と学習の中で関わって実態把握に努め、提案、発信することを実践しています。

#### 2) テーマに基づく活動について

1年次の中心活動は状況把握です。町に関する各自の知識やイメージについて生徒同士で意見を出し合い、更に役場の職員から福祉・観光・産業・保健等の分野について現状をお聞きしました。その中から各自が関心のある分野でテーマを決め、情報収集を行いました。2年次では、自分の体験や思い、具体的な取組みを自分自身の活動として実践し、将来への提案や自分なりの考えをまとめ、校内において中間プレゼンを実施しました。3年次では、2年次まで個人で活動してきたテーマをもと

に班を編成し、地域の方々を招き公民館で発表会を実施しました。発表会では、町が行っている金山住宅の推進活動、交流施設建設等への提言や、生徒が作成した英語による特産品説明用パンフレットの提案などを行い、実現可能な提案内容は町の事業にも反映されてきています。参加者から「中学生一人ひとりが町の宝」との感想も寄せられ、地域の皆さん

が私達に期待をしていると感じると同時に、その責任も感じました。

#### 3) これからの活動に向けて

金山学での様々な活動を通し、町を愛する、誇りに思う気持ちがより一層深まりました。今後も町への関心を持ち続け、町の発展や提案の実現に向けて力を発揮する一員となっていきたいと考えています。



#### 1) テーマについて

私達は総合的な学習の中で、課題発見能力・課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、「生きる為に必要な力」を身につけることを目的に活動しています。1学年では「米沢を見つめよう」をテーマに、仮想の会社を立ち上げ、地域の素材を生かした商品を企画し、材料の仕入れ・製造・販売・決算という一連の流れを体験しました。

#### 2) テーマに基づく活動について

具体的な活動内容としては、まず「仮想」の社長を決め、会社を立ち上げることから始めました。事業計画も策定し、どのような商品が売れ、お客様に喜んで頂けるのか案を出し合いました。計画の際、担当教諭から課題として「米沢の素材を必ず取り入れる」という条件が付けられました。そこで私達は米沢の代表的な素材である「米織」「紅花染め」「リンゴ」「さくらんぼ」「米沢牛」等を商品に取り入れることで、地元特産品や歴史・伝統につい

### 総合的な学習の時間



て深く学ぶことができました。商品製造の段階では、より良い商品ができるだけ安くお客様に提供するために、米織のお店や手芸店に自ら足を運び仕入れを行いました。完成した商品は米沢市生涯学習フェアで販売を行いました。実際にお客様に接することでしか味わうことのできない経験ができました。販売学習の後には決算を行いました。生徒が立ち上げた24社の収支を合わせると27,564円の黒字となりました。

#### 3) これからの活動に向けて

これまで私達は米沢に住んでいるにも関わらず、故郷について学ぶ機会が少なかった為、この度の活動を通し改めて米沢の特産品を知ると同時に、有名になった理由やその起源、そして、背景にある歴史やそこにこめられた人々の思いを学ぶことができました。今後は、先人達がつくりあげ守ってきた伝統を受け継ぎ、新たな文化の構築や発信を行うため、より多くの故郷の歴史について学んでいきたいと思ひます。



#### 審査員／沼野慈氏

個人テーマとゴールを定めた金山学3年間の取組みは、地域理解を一段と深め、「故郷を誇りに思い少子高齢化の課題を解決するのは私達」と明言する姿に現れ、主体性が育まれていると感じました。



#### 審査員／渡部泰山氏

「総合的な学習の時間」のねらいをしっかりとおさえ、地域の課題発見、解決能力を地域社会の素材を生かした商品開発の企画、仕入れ、販売、決算というリアルな流れの中で実践していました。地域との深いかかわりや他者との豊かな協働の学びが感じられました。





## 山形県立村山産業高等学校

### 農業部バイテク班

工藤 瑞希 早川 駿 高嶋 一希  
奥山 一希 山口 和希



## 山形市立商業高等学校

### 学校家庭クラブ

③この発表は、平成25年度・26年度家庭クラブ所属の生徒が行った研究を、今年度の生徒が代理で発表を行いました。



## オキナグサの保護・増殖活動

## 紅花菜の魅力



の発芽や寿命に関する実験をすることで、効率的な増殖法を確立することができ、安定した苗生産が可能となりました。そして改めて苗をプランターに植え、南山形地区へ設置し、更に蔵王みはらしの丘はらっぱ館にも専用花壇を開設しました。現在に至っても住民の皆様と共に定期的に管理作業を行い、継続的にオキナグサが育ち続ける環境を維持しています。開花時期には地区内にプランターを設置し、地域住民を巻き込んだ環境美化活動を行っています。

### 3) これからの活動に向けて

これらの活動を通し、環境保全活動に取り組むための知識・技術・施設面での敷居を低くし、「限られた人しかできなかった環境活動」を「誰でもできる環境活動」にすることで、オキナグサを用いた環境保全活動が継続される可能性が高まるのではないかと考えています。

### 1) テーマについて

私達は山形県から絶滅危惧種IA類に指定されているオキナグサの保護・増殖活動を行っており、県民を対象とした環境学習を展開するなど県民の環境保全意識の向上を目指しています。この活動を通し、郷土に存在する絶滅危惧植物を守り、その環境を維持する思いを広く県民に伝えていきたいと考えています。

### 2) テーマに基づく活動について

オキナグサの大量増殖法について

で研究していた私達は、「地域の花として管理したい」という南山形地区住民を対象に栽培講習会を実施しましたが、「うまく栽培できない」「まったく芽が出ない」という意見を多数寄せられてしまいました。

原因を調査したところ、オキナグサは自然条件下での発芽率が非常に悪いことが分かり、栽培方法を再検証することとなりました。検証の結果、土への実生よりも無菌播種を用いると発芽率が向上することが分かり、播種に適した土壌の検討や種子

### 1) テーマについて

山形県の花「紅花」は、花を綺麗に咲かせるために成長途中の若菜は間引かれてしまいます。しかし若菜には紅花に負けない高い栄養価があり、紅花農家では若菜を食べることもあります。私達は紅花の若菜を紅花菜と呼び、紅花とともに利用方法を探り、多くの人にその魅力を伝えたいと考え、研究を始めました。

### 2) テーマに基づく活動について

紅花が県花であるということは知られていても、利用方法は紅花染めぐらいしか知られていません。まず紅花の栄養価・効用を改めて調べてみることにしました。カルシウムや食物繊維が豊富で、整腸作用、活性酵素を消去する作用、生活習慣病の予防にもなります。紅花菜も紅花同様の栄養価が期待できることも分かりました。栄養価も高く、捨てられている紅花菜を有効活用するために、献立の開発や保存方法等の研究を行いました。

栽培実験では、他の植物に比べ、短期間で簡単に育てることができると分

かりました。低温でも時間をかければ十分に育ち、季節を問わず栽培が可能であることも分かりました。プランターや水栽培でも、簡単に栽培できるので、多くの人に手軽に育ててもらいたいと思います。

これらの研究成果を広く周知するために、学校祭では、パンフレットと紅花菜クッキー、地元町内会の役員さんたちとの懇談会では、紅花菜ポテトコロッケ、紅花パイン寒天、紅花と若菜の入っ

た混ぜご飯等を提供しました。「うまく料理に利用できている」「紅花の葉って、食べられるんだ」等の感想をいただきました。

### 3) これからの活動に向けて

今後は、認知度が低い紅花菜の魅力を広く県民に周知するためのPR活動を行って行きたいです。そして、紅花菜を使用した新たな山形名物の開発を目指したいと思います。



### 審査員／堀川敬子氏

ひとつの花を通して地域や世代を超えた交流が生まれ、地区の環境美化活動にまで発展して驚きました。学生の学びが地域社会に還元されており、産業高校としての理想的な形を体現していると感じます。



### 審査員／渡部泰山氏

山形の歴史的特産物とも言える「紅花菜」の魅力伝えるべく、家庭クラブの研究を主体とした実践は、栽培農家の調査、栄養価、活用、栽培方法の研究など具体的かつ精緻でした。観光、産業展開を視野に入れた課題意識も明確で、表現、発表もユニークでした。





## 山形県立新庄神室産業高等学校

### ラズベリープロジェクトチーム

大場 彩乃 松澤 彩花 谷 莉奈 長南 七海  
長沼 莉奈 矢口 和佳奈 菅 翔真 菅 尚徹



## 山形県立鶴岡工業高等学校

### 3年環境システム科

白峯 真佑 富樫 佑 菅原 未来  
上野 雅尚 佐藤 雄介



## 最上ラズベリー会との連携プロジェクト 最上の魅力 再発見

## うつくしい山形 うつくしい庄内 うつくしい鶴岡 …ふるさと再発見・環境保全・環境保護活動

### 1) テーマについて

果樹王国山形の中でも、豪雪地帯の最上地域は、雪の重みで枝が折れるため果樹生産は不向きとされてきましたが、県の研究により越冬対策が確立されたラズベリーは、最上地域でも栽培が可能となりました。私達は、最上地域を国内最大のラズベリー産地にしようと取り組んでいる「最上ラズベリー会」と連携し、農業科と工業科が共同してそれぞれの知識や技術を活かして、生産者の思いやラズベリーの魅力が伝わる食品や収穫と調整の省力化を図る機械の開発を進めています。



### 2) テーマに基づく活動について

農業科では、地元企業の方より寄贈された遠赤外線食品乾燥機で乾燥ラズベリーを作りました。

38℃前後の低温域でラズベリーを乾燥させることにより、栄養価・食味・色調をほとんど壊すことなく、料理に活用することができます。その乾燥ラズベリーを用いたクッキーや

カップケーキ、パン等の菓子類を地域のイベントで販売し、ラズベリーの魅力を発信しました。

機械電気科では、生産現場における収穫労力の軽減に着目し、収穫の時間短縮、実を傷めないような半自動収穫機の開発や、選果作業の効率を上げるためのゴミ取り機の開発を行いました。実際に生産者の方に使用して頂き、その意見を取り入れながら改良を重ね、試作機を完成させました。

### 3) これからの活動に向けて

これらの活動を通して、最上地域の方々の優しさに触れることができ、どんどん地域を好きになっていきました。また、若い女性の農家さんが活躍できる新しい農業に、最上地域の明るい未来を感じました。今後も生産者を増加させるきっかけを作っていくためにも、現在取り組んでいる食品の商品化や機械の実用化を目指し、これからも研究に励んでいきたいと思っています。

### 審査員／沼野慈氏

ラズベリーの魅力を伝える加工食品開発を通じた学習は、地域農業と若手生産者の意欲向上に繋がり地域の課題解決に資するもので、発表内容はわかりやすく生産者増に向け良い契機になるものでした。



### 1) テーマについて

私達は、地球環境に優しいものづくりができる技術者の育成を目標としている環境システム科に所属しており、環境を念頭に置いた野外実習を行ってきました。河川の水質調査、防砂林の保全活動、森林環境整備の植林事業を、県や関係機関と連携して実施し、その活動は今年で16年目を迎えています。

### 2) テーマに基づく活動について

さらに、今年度は、ラムサール条約に基づく指定を受けた大山下池・上池周辺の自然保護活動の拠点である鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」の環境保全イベントに参加し活動してきました。「ほとりあ」周辺の都沢湿地の親水水路および都沢湿地に影響を与える下池周辺の外来植物の駆除作業を大学生やボランティア団体と協力して行

い、その活動を地元メディアにも取り上げて頂きました。夏休み期間には学芸員の方から講義を受け、その後生き物供養祭やアメリカザリガニ捕獲作戦等のイベントに参加しました。山形県に3カ所しか群生していない稀少植物のフタバムグラがあることが分かり、エビなど多種多様な生き物も見つけることができました。

大山上池・下池は海の影響もあり、温暖な場所の生き物と寒冷な場所の生き物が混在している非常に珍しい環境があります。そのうつくしい自然と人間が共存しているのが山形県であり、庄内、鶴岡です。環境保全活動を通して、ふるさとの自然の素晴らしさを再認識し、この地に生まれて良かったと新たな視点から思うことができました。

### 3) これからの活動に向けて

今後、学んだことをまとめ、小学校への出前授業も計画しています。また、環境保全活動には企業グループの参加もありました。就職してからも活動に関わっていきたくと思っています。



### 審査員／堀川敬子氏

「地球環境に優しいものづくりができる技術者の育成を目標としている」学科があることを初めて知りました。ふるさとの環境を再認識し、積極的に保全・保護活動を展開していることを嬉しく思います。

